

タイトル	命を大切にする教育
名称（学校・地域）	箕輪町立箕輪中部小学校
ホームページ	https://town.minowa.ed.jp/chubu

【教育活動の内容】

命を大切にする教育

箕輪中部小学校は、中箕輪尋常高等小学校であった大正2年（1913年）8月26日、修学登山のため駒ヶ岳に向かった生徒・教師ら37名が山上で大暴風雨に遭遇し、11名の尊い命が犠牲となった悲しい歴史があります。当時、全国的にも大きな衝撃を与え、後日、「聖職の碑」という小説や映画になったことでも知られています。

また、昭和17年9月13日、6学年児童155名が修学旅行中、直江津港突堤において波に襲われ、26名が海中に転落、5名が不帰となりました。

これらの事件は、犠牲者やその遺族にとって、また生還した人達や学校にとっても、大変重く・辛い記憶ですが、二度と同じ悲劇を繰り返さないためにも、忘れてはいけない事件であり、中部小学校では、「命の大切さ」について改めて考える機会ともしています。毎年、「命の大切さを考える集会」を児童会主催で行い、それらの経緯を知るとともに、両日とも、朝、児童会役員が慰霊碑に花を手向け、全校児童それぞれが登校してきたところでお参りをしています。



駒ヶ岳遭難慰霊の日に献花をし、手を合わせる児童。（左、中の写真）

校庭北側にある直江津遭難慰霊碑。毎年、当時の同級生の方々もお参りをしています。

そして、令和2年秋、5年2組が「総合的な学習の時間」で羊を飼い始めました。信州大学の農学部からお借りしている雌の羊で、名前は「歌ちゃん」と言います。児童昇降口前に小屋を建てたので、みんなの人気者です。

その歌ちゃんが、2月に子羊を3匹産みました。



歌ちゃんや子羊を世話することで、生命の尊さを知り、日々、学んでいます。